

[特別支援教育]

互いに育つ交流及び共同学習の推進

—心のパワーアップ（異年齢集団でのソーシャルスキルトレーニング）の実践を通して—

古川 瞳\*

1 問題の所在

共生社会の形成に向けて、特別支援教育を進め、障害のある子どもと障害のない子どもができるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すことが求められている。文部科学省（2009）は『交流及び共同学習は、特別支援学校や特別支援学級に在籍する障害のある児童生徒等にとっても、障害のない児童生徒等にとっても、共生社会の形成に向けて、経験を広め、社会性を養い、豊かな人間性を育てる上で、大きな意義を有するとともに、多様性を尊重する心を育むことができる』としている。しかし、交流及び共同学習のねらいは十分に達成されてきたとはいえない。これまで、交流及び共同学習の課題として、「教育課程の連続性や学校生活との関連性に欠け、単発の交流機会にとどまってしまっている場合や、障害について形式的に理解させる程度にとどまっている場合も多く見られる」という指摘や、「どのような資質能力を育成するのかを明確にすること」「各教科等において効果的に交流及び共同学習の機会を設けること」が必要との指摘がある（心のバリアフリー学習推進会議，2018）。共生社会の形成に向け、障害のある児童も障害のない児童も双方が授業内容を理解して学習する教育が求められ、豊かな人間性を育むために交流及び共同学習を推進していく必要があると考える。

交流及び共同学習は、「障害のある児童」と「障害のない児童」が共に学ぶ教育活動であるとされる。しかし、通常の学級に多様な教育的ニーズのある児童が在籍している状況から、「必要な支援の度合いが異なる児童に対して、一人ひとりの学びを大切にすることで、児童が共に成長する教育活動」という発想の転換が必要ではないだろうか。

さらに、現代の課題として河村（2009）は、「対人関係がうまくいかないのは、その人の持って生まれた気質によるものではなくソーシャルスキルという技術が未熟なのだから、その技術を学習すれば対人関係は向上する」と述べている。そのため、学校教育の中で児童に対して計画的な対人関係の体験学習を実施することが強く求められていると考える。

その方法の一つとして「心のパワーアップの活動（異年齢集団でのソーシャルスキルトレーニング：以後“心のPU”と記載する）」がある。心のPUとは、当校で低学年児童の希望者を対象に実施しているコミュニケーションスキルなどの社会生活を営むうえで必要なスキル習得のための時間である。

2 研究の目的

小学校低学年を対象とした心のPUを実施することにより、障害のある児童も障害のない児童もそれぞれが活動でのねらいを明らかにし、共に学ぶことでそれぞれの活動の達成度や双方にどのような効果があるかを明らかにする。

3 研究の方法

(1) 対象児童（第2学年 男子2名）

表1 対象児童の実態について

	対象児童A（以下、A児）	対象児童B（以下、B児）
児童の実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衝動性が高く、友達とのトラブルが多かったため、3歳から上越市こども発達支援センターでの相談を開始。</li> <li>・4歳のときに医療相談をしたが、診断名なし。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前から就学时健康診断等で落ち着きのなさが若干目立っていたが、就学相談は受けていない。</li> <li>・1年生の1学期から心のPUの活動に参加している。</li> </ul>

\*上越市立飯小学校

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5歳から上越市こども発達支援センターで個別指導（構音と語彙を増やす）と小集団指導（社会性）を受ける。</li> <li>・ 就学前に就学相談を受ける。（十分な配慮の下、通常の学級で指導し、発達障害通級指導教室の利用が適切であるとの判断が示された。）</li> <li>・ 入学後、1年生1学期から心のPUの活動に参加している。</li> <li>・ 友達とのトラブルが続いたため、1年生の3学期より発達障害通級指導教室での指導を開始し、現在に至る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字を読むことに時間がかかる。</li> <li>・ グループを作るときに自分から声を掛けて誘えず、うろうろと逃げてしまう。</li> <li>・ 援助要求が自発的にできない。文字を読むことに抵抗感があり、時間が掛かるが、「教えてください」など自分からは言えない。</li> <li>・ 調子に乗って悪ふざけをして注意されても、すぐに修正できない。</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 調査期間 2018年4月～2019年9月

(3) 調査材料と手続き

① ソーシャルスキルの変容について

hyper-Q U ソーシャルスキル尺度を用いた調査

- ・ 事前調査 2019年6月25日
- ・ 事後調査 2019年9月5日

② 学級での変容について

学級担任による聞き取り

- ・ 事前調査 2019年4月16日
- ・ 事後調査 2019年9月30日

(4) 実践の手続き

① A児及びB児の実態把握

- ・ hyper-Q U ソーシャルスキル尺度を用いた調査（本人の自己評価による回答）
- ・ 児童及び保護者を対象とした記述式アンケート調査
- ・ 担任からの聞き取りによるニーズの把握

② 活動計画作成…実態把握を元に児童に不足しているソーシャルスキルを抽出し、それらを高める活動計画を作成する。

③ 活動のスケジュール

- ・ 2019年5月～9月（週に1回45分の活動を9回実施）
- ・ 振り返りシートを記入し、児童の達成度と変容を見取る。

④ hyper-Q U ソーシャルスキル尺度や学級担任からの聞き取りから、学級集団の変容について調べる。

#### 4 実践の概要

(1) 事前調査

① ソーシャルスキル尺度（4…いつもしている 3…だいたいしている 2…あまりしていない 1…まったくしていない）

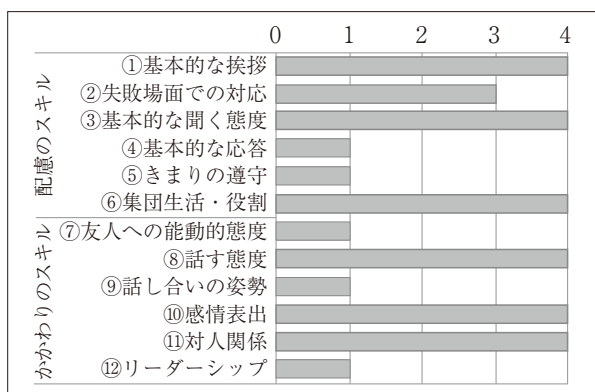


図1 2019年6月のソーシャルスキル尺度の結果（A児）

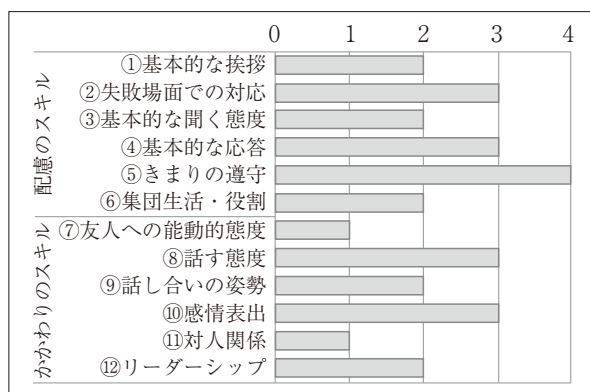


図2 2019年6月のソーシャルスキル尺度の結果（B児）

## ②児童及び保護者，担任を対象とした記述式アンケート調査の結果

心のPUの参加にあたり，児童と保護者に記述式でアンケート調査を行った。

ア あなたは「心のパワーアップ」でどんなことができるようになりたいですか。（児童のめあて）

イ お子さんにどんな力を身に付けてほしいと思われませんか。お子さんの現在の様子を入れながら，できるだけ具体的にお書きください。

表2 児童および保護者を対象とした記述式アンケートの結果と担任のニーズ

	A児	B児
児童	・友達にパンチをしないようにしたい。	・悪い言葉遣いを直したい。
保護者	・感情や行動のコントロールをうまくできるようになってほしい。学校や児童クラブで友達に手を出すことは少なくなったが，友達とのトラブルをもっと減らしたい。	・言葉遣いが悪いので良くしたい。
担任のニーズ	・聞く力，見る（注目し，理解しようとする）力を身に付ける。 ・声掛けにより，行動や気持ちを切り替える。 ・友達と適切に関わる。（正しい言葉遣い，目を見るなどの適切な態度）	・友達と適切に関わるスキルを身に付ける。 ・不適切な行動があっても声掛けで気持ちを切り替え修正する。

図1，図2は6月に実施したhyper-QUソーシャルスキル尺度を用いて測定した結果である。

A児は，肯定的評価が低かった項目（2…あまりしていない，1…まったくしていないを付けた項目）は，配慮のスキルの④基本的な応答，⑤きまりの遵守である。かかわりのスキルでは，⑦友人への能動的態度，⑨話し合いの姿勢，⑫リーダーシップの項目である。A児の記述式アンケートで「友達にパンチをしないようにしたい」と記述していることや担任のニーズとして「友達と適切に関わる。（正しい言葉遣い，目を見るなどの適切な態度）」と挙げられていることと一致する。

B児は，肯定的評価が低かった項目（2…あまりしていない，1…まったくしていないを付けた項目）は，配慮のスキルの①基本的な挨拶，③基本的な聞く態度，⑥集団生活・役割である。かかわりのスキルでは，⑦友人への能動的態度，⑨話し合いの姿勢，⑪対人関係，⑫リーダーシップの項目である。B児の記述式アンケートで本人，保護者とも「悪い言葉遣いを直したい」と記述している。加えて担任も「友達と適切にかかわるスキルを身に付ける。」ことを必要としていることから，ソーシャルスキルの未熟さが予想される。

### (2) 心のパワーアップの活動計画の作成

①と②の事前調査の結果から，A児もB児も次のスキルが必要であると思われる。

ア…集団行動に関するスキル。（対人マナー，状況理解，集団参加，など）

イ…感情や行動を上手にコントロールするスキル。

ウ…仲間関係を上手に開始したり，維持したりするスキル。

エ…コミュニケーションに関するスキル（上手に聞く，上手に話す，会話や話し合いを続ける，自分も相手も大切にしたい形で自己主張をする，など）

以上のようなソーシャルスキル学習を基盤にしながら，「相手の話を口を閉じて最後まで聞く」「姿勢を保持して話を聞く」などのアカデミックスキル（学習規律）に目を向けた内容も取り入れた活動計画を作成する。

### (3) 1学期の活動内容と活動のめあて（毎週木曜日6限 12回実施）

活動計画を作成するうえで留意したことは，スキルの改善が目的ではあるが，児童が心地よさを感じることを前提として，楽しんで取り組めるゲームの内容を取り入れたことである。その理由は，集団活動へ目標をもち積極的にかかわっていく姿勢は集団体験の楽しさを感じる事が第一歩と考えたからである。また，心のPUは異学年での活動であることを生かし，2年生がリーダーになるような小グループでの活動での場面を多く取り入れ，自己有用感や自己肯定感をもたせることを意識して活動を行った。表3は作成した活動計画である。

表3 心のパワーアップの活動計画（1学期）

	活動名	活動のめあて（ターゲットスキル）
①	「お返事しましょう」	・大きな声で返事をする。・先生の目を見て返事をする。
	「ピクニックに行こうよ」	・ルールを理解する。・ルールを守る。・友達に声を掛けて誘う。
②	「お返事しましょう」	・大きな声で返事をする。・先生の目を見て返事をする。
	「なかよし運動：ニョキニョキ山」	・友達に声を掛けて、誘う。・友達と協力して体を動かす。
③	「お返事しましょう」	・大きな声で返事をする。・先生の目を見て返事をする。
	「なかよし運動：シーソー」	・友達に声を掛けて誘ったり、活動の最後にお礼を言ったりする。・友達と協力して体を動かす。
④	「お返事しましょう」	・大きな声で返事をする。・先生の目を見て返事をする。
	「人数集め」	・指導者が拍手する音を集中して聞く。 ・相手に聞こえる声で自己紹介をする。
⑤	「お返事しましょう」	・大きな声で返事をする。・先生の目を見て返事をする。
	「私負けましたわ」	・学年や男女にこだわらずに友達に声を掛けて誘う。 ・友達と握手をする。 ・じゃんけんに負けても怒ったり、不機嫌になったりしないでゲームに参加する。
⑥	「お返事しましょう」	・大きな声で返事をする。・先生の目を見て返事をする。 ・自分の順番が来るまで、友達の返事を静かに聞いて待つ。
	「私負けましたわ」	・友達と握手をする。 ・じゃんけんに負けても怒ったり、不機嫌になったりしないでゲームに参加する。
⑦	「お返事リレー」	・大きな声で返事をする。・友達の名前を「〇〇さん」と呼ぶ。
	「木の中のリス」	・自分から声を掛けて3人組を作る。 ・友達と仲良く相談する。 ・話をよく聞いて、指示に従って活動に参加する。
⑧	「お返事リレー」	・大きな声で返事をする。・友達の名前を「〇〇さん」と呼ぶ。
	「木の中のリス」	・自分から声を掛けて3人組を作る。 ・友達と仲良く相談する。 ・話をよく聞いて、指示に従って活動に参加する。
⑨	「1学期の振り返り」 (アンケート形式と自由記述)	・以下の点を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>┌ 話している 人を見て、体育座りをしながら話を聞くことができましたか。</li> <li>├ 名前を 呼ばれたら、元気よくすぐに返事ができましたか。</li> <li>├ 「くん」や「さん」を付けて お友達の名前を呼ぶことができましたか？</li> <li>├ 自分から声を掛けて、いろいろな人と活動することが できましたか。</li> <li>├ ルールを守って友達と相談したり仲良く遊んだりできましたか。</li> <li>└ 心のPUは楽しかったですか。2学期もやりたいですか。</li> </ul>
⑩	ソーシャルスキルの振り返り、2学期のめあて	・ソーシャルスキルの達成度について自己を振り返り、2学期のめあてをきめる。
⑪	「王様の命令」	・話を最後までしっかり聞いて行動する。
	「私負けましたわ」	・学年や男女にこだわらずに友達に声を掛けて誘う。 ・友達と握手をする。 ・じゃんけんに負けても怒ったり、不機嫌になったりしないでゲームに参加する。
⑫	「王様の命令」	・話を最後までしっかり聞いて行動する。
	「人数集め」	・学年や男女にこだわらずに友達に声を掛けて誘う。 ・友達の話を聞き終わったら拍手をする。

#### (4) 心のパワーアップの活動の様相

##### ①実施期間と時間設定

1学期（5月9日～7月4日）の9回と2学期（9月5日～9月26日）の3回に毎週木曜日の6限に希望者を募り、活動を実施した。

##### ②A児、B児とともに活動をした異年齢の構成メンバー

1～2年生の希望者37名で活動を実施。メンバーの構成は、1年生27名（男子14名、女子13名）、2年生10名（男

子8名、女子2名)である。

### ③プログラムの展開

児童にワークシートを配付し、活動のめあてを明確にしてからターゲットスキルを獲得するための活動を実施した。活動後には、3段階の自己評価(◎, ○, △)と自由記述(がんばったことや楽しかったことを書きましょう。)で振り返りを行った。

## 5 研究の結果と考察

### (1) ソーシャルスキル尺度の変化

4…いつもしている 3…だいたいしている 2…あまりしていない 1…まったくしていない

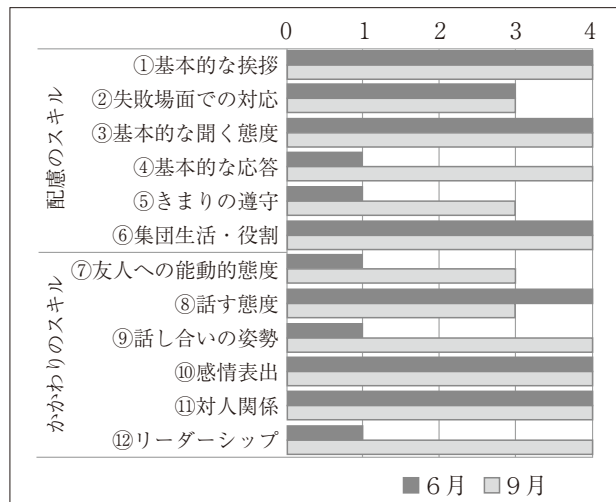


図3 ソーシャルスキル尺度の変容 (A児)

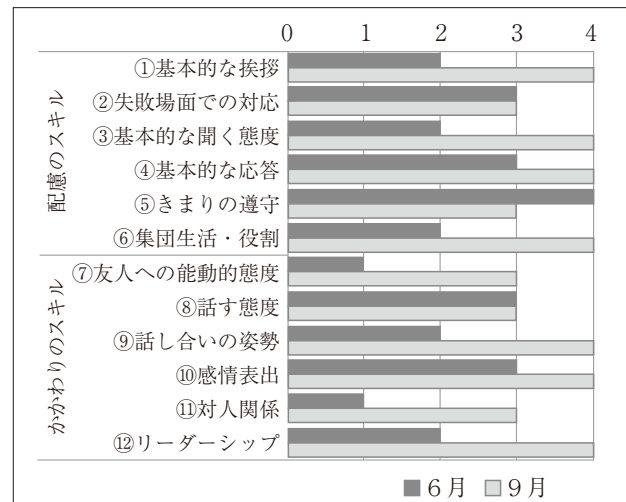


図4 ソーシャルスキル尺度の変容 (B児)

図3と図4は、A児とB児における6月と9月のソーシャルスキル尺度の結果を示したものである。

A児の肯定的評価が上昇した項目は次に挙げる5項目である。

- ・配慮のスキルでは、④基本的な応答、⑤きまりの遵守
- ・かかわりのスキルでは、⑦友人への能動的態度、⑨話し合いの姿勢、⑫リーダーシップ

B児の肯定的評価が上昇した項目は次の9項目である。

- ・配慮のスキルでは、①基本的な挨拶、③基本的な聞く態度、④基本的な応答、⑥集団生活・役割
- ・かかわりのスキルでは、⑦友人への能動的態度、⑨話し合いの姿勢、⑩感情表出、⑪対人関係、⑫リーダーシップ

2名とも④基本的な応答、⑦友人への能動的態度、⑨話し合いの姿勢、⑫リーダーシップの項目で肯定的評価が上がっている。これは、心のPUで「名前を呼ばれたら返事をする」「自分から誰にでも声を掛ける」「話を最後までよく聞く」「仲良く相談する」などの活動を行い、自分の気持ちを伝える話し合いの方法や友達とよりよくかかわる方法を学んだからである。

加えて、児童の振り返りの記述から「自分から声を掛けた」「楽しかった」と活動を楽しんでいる感想が多く見られた。楽しんで取り組めるゲーム的内容を取り入れたことが、適切なかかわり方を心地よいと感じ、集団活動へ目標をもち積極的にかかわっていく姿勢につながったと考える。

### (2) 心のパワーアップの活動での行動の変化

A児は、異年齢の1年生と一緒に活動することで、2年生としてお手本になろうと良い姿勢を保とうとしたり、張り切って号令をかけたたりとする姿が見られた。振り返りの記述では、初めは「楽しかったです。」程度の振り返りを書くに留まっていたが、回数を重ねるごとに「二人でやって楽しかったです。」や「1年生の〇〇さんとしました。」といった記述が多くなった。一緒に活動をした児童の名前も毎回違う名前を書いており、性別や学年に関係なく誰にでも声を掛けてペアやグループ作りをしていったことが分かった。2学期のめあてにも「1年生にお手本を見せる」と記述して

おり、本人も2年生としての行動を意識していることが分かる。こうしたことが自己肯定感を高め、ソーシャルスキル尺度のポイントを上昇させたと考える。

B児は、活動を始めた当初は、なかなか自分から声を掛けられなかったり、ついふざけて不適切な行動をしたりすることが多かった。しかし、B児も回数を重ねるごとに一緒に活動をした異年齢の児童名が振り返りに書かれるようになった。「活動をもっとやりたい。」と意欲的に活動していることが分かる。さらに、学期末の振り返りでは「友達がいっぱいできた。心のパワーアップは楽しいよ。3年生になってもやりたいよ。友達を増やしたいです。」と書くなど、B児は振り返りの記述の量が増えている。

2名とも、友達との適切な関わり方を心地よいと感じ、もっと活動をしたい、友達を増やしたい気持ちになっていったことが分かる。

### (3) 学級での行動の変化

A児は学級の友達と仲良くしたい気持ちがあっても衝動性が高く、気持ちや行動をコントロールすることが苦手である。しかし、A児は学級内での他害行為は少なくなってきた。これまでは毎月の生活振り返りアンケートで学級の友達から「A児にパンチされて嫌だった」等の記述が複数あったが、9月は「嫌なことを言われた」を除き、身体による他害の被害の記述はなかった。また、友達とのトラブルがあっても素直に自分の行為を認めることができるようになってきた。友達との適切なかわり方を学び、適切なかわり方の心地よさを経験したからであり、そうした心地よさが衝動性をコントロールしていると考えられる。

B児は、学級の友達とかかわりたい気持ちがあっても正しいかわり方が分からず、調子に乗って不適切な行動をして注目を得ようとする傾向があった。本児が「悪い言葉遣いを直したい」と自覚しているように、適切な言い方や行動が分からなかったことから、友達への適切なかわり方を学ぶことで、自信がつき適切な言動で友達から認められる機会が増えた。このことにより不適切な言動は少なくなってきた。よりよいかわり方を学ぶことが日常生活にも生かされていると言える。

## 6 まとめと今後の課題

この研究により、集団生活・活動の体験の少ない低学年では、まずは人とかかわる体験そのものに十分慣れさせることと、そのための学びや活動時間を保障することが重要であることが明らかになった。その際、特別な支援を必要とする児童においては、実態に合わせて弾力的、柔軟に行い、人とかかわることが楽しいという体験がソーシャルスキルを学ぶ基盤となり、そこでの成功体験や承認がソーシャルスキルをより強化し、定着につながるのである。さらに異年齢集団で活動を実施したことで、上学年である2年生にとっては、下学年の1年生に対して良いモデルになろうと意識することが、「よりよい自分になりたい」という気持ちをより高め、人とかかわることへの自信を伸ばした。1年生にとっては、少し先の未来の姿である2年生をモデルにすることで、より見通しをもって学ぶことができたと考えられる。

特別な支援を必要とする児童にとって、学んだことが日常生活に溶け込んで行動として習慣化するためには、低学年の時期だけでなく、学校生活全般において人とかかわる体験を意識的に取り上げることが大切である。今後は小学校6年間を見通し、学校全体でソーシャルスキルを意識した取組がより必要だと考える。

### 参考・引用文献

- 文部科学省 「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進」報告、2009年、[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321668.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321668.htm)
- 心のバリアフリー学習推進会議 「心のバリアフリー学習推進会議（報告）学校における交流及び共同学習の推進について～『心のバリアフリー』の実現に向けて」2018年、[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/\\_icsFiles/afieldfile/2018/03/14/1401341\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/_icsFiles/afieldfile/2018/03/14/1401341_2.pdf)
- 河村茂雄 「学級ソーシャルスキルC S S 低学年版」図書文化 2009年、18-31pp
- 瀧澤恵介 「低学年のスタートダッシュプログラムが親和的な学級集団育成に及ぼす影響－チームで短期集中的に実践したソーシャルスキル教育の効果について－」上越教育大学学校教育総合研究センター『教育実践研究 第27集』2017年、193-198pp